

経済

社会

環境

3つの側面で考えよう 私たちができるSDGs

背景

今、世界では、多くの問題が起こっています。
 感染症の世界的大流行や、多くの地域での紛争、各国で広がる格差、そして気候変動など。
 こうした問題に対して、世界中が協力して取り組むこととしたのが、2015年に国連加盟国の全会一致で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)です。
 SDGsは、経済・社会・環境の3つの側面のバランスを取りながら、より良い未来のために今すぐ取り組むべき共通の目標となっています。



私たちにも関係のあるSDGs

世界的な問題も、私たちの生活と決して無関係ではありません。また、SDGsというと、国や自治体、企業がやるべきことと捉えがちですが、個人ができることもたくさんあります。
 隣のページには、日常生活で取り組むことができる事例を紹介しています。米沢市では、「わたしのなせばなる」として団体等での取組を募集し、市HPにも掲載していますので、それが今後の取組の参考にもなるはずです。

米沢とSDGs

私たちの住む米沢には、SDGsの先駆けとも言われる上杉鷹山公の精神性が受け継がれています。また、エネルギー問題に目を移すと、市内で発電されている再生可能エネルギーは、すでに一般家庭の約2万世帯分に達するなど、再生可能エネルギーのポテンシャルにも恵まれている地域です。今後も、これまで受け継いできた精神性や豊かな自然環境を次代につないでいくことが大切となってきます。

コラム 上杉鷹山公とSDGs

上杉鷹山公は、財政難から米沢藩を救うために産業を育成し領民生活を守ったことにとどまらず、災害や飢饉への備えや医療の向上、高齢者を大切に、子育てを支援し、藩校の再興等も行っており、SDGsを先駆ける藩政を行いました。当時、資材に用いた草木を供養する草木塔が建立されたことも、SDGs精神が定着したことの表れと言えます。
 (九里学園高等学校教諭遠藤英氏に解説いただきました。)



さあ、始めよう！ 私たちの日常生活から始められる取組

経済・社会・環境のために



子どもたちも始めています

市内の各学校では、SDGsに関する学びを深めています。例えば、西部小学校では、総合的な学習で「見つけよう！わたしたちのできること」と題しSDGsの学習を進めました。世界の環境汚染や米沢市の水やゴミの現状についての学習を経て、SDGsの目標を具体的に調べることで、小学生の自分たちにどんなことができるのか考えをまとめました。それらを共有し、今後実行していくことでSDGsの目標達成への貢献を目指します。

